



例会日 毎週金曜日 時間 12:30~13:30
例会場・事務局 上尾市中妻 3-11-2(3F)
TEL 048-771-7888 FAX 048-771-9589
HP <http://ageokitarotary12@gmail.com>

国際ロータリー第 2770 地区

上尾北ロータリークラブ会報

持続可能な
インパクトを
生み出そう

Rotaract

持続可能なインパクトを生み出そう

会長 新井金作 副会長 星野晋 幹事 金子一夫 公共イメージ 田島純

No.1371 (7月号)

会長挨拶 7/3

新井会長

皆様こんにちは。2026-27 年度会長を務めさせていただきます新井でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

昨年度に引き続き会員増強を実行し、楽しくて生涯にわたる大切な友人や知人を増やし、会社や社会に活力を与える基礎となる一年となるように皆さんと共に歩んでいきたいと思ひます。

上尾ロータリークラブ樋口ガバナー補佐幹事



ご挨拶

上尾ロータリークラブ 久保田ガバナー補佐



久保田勲ガバナー補佐、樋口雅之ガバナー補佐幹事より、ロータリー活動の意義や地区の方針、今後の活動に向けた貴重なお話をいただきました。

部門・委員長報告

◎クラブ管理運営部門

田口充会員

8 月プログラム

第 1 週…クラブフォーラム①前年度決算報告・
新年度予算

第 2 週…例会の取消 (週祝日)

第 3 週…久保田ガバナー補佐訪問 結婚誕生祝

第 4 週…三枝和男ガバナー公式訪問

感謝状授与



新井新会長より金子直前会長、杉中直前幹事へ感謝状と記念品が贈られました。



結婚・誕生日祝 7月

田口家族親睦委員長

＊誕生祝＊榎本 学会員 田中 潔会員
藤波 貢会員 金刺敬人会員
中村清治会員 江原一也会員

おめでとうございます！

夜間移動例会 7/17



入会式

深山会員 ようこそ上尾北 RC へ



新入会員の深山純会員をご紹介します。
埼玉県上尾市在住深山純さんです。(株) 深山の副社長でいらっしゃいます。

卓話

創立記念日に当たって

大國博会員



本日は上尾北ロータリークラブの創立 39 周年にあたり卓話を依頼されここに立たされています。今まで記憶にある中で 3 回ほど卓話を依頼され、何とか熟してきました。今回は新しいメンバーに向けて過去の卓話を参考にお話させていただきます。さて、日本で最初の RC は、東京 RC というのは皆様ご存じだと思います。それでは日本人で最初のロータリアンは？と言われれば、いかがですか？米山梅吉さんと答える方が多いのではないかと思います。実は日本人で最初のロータリアンは福島喜三次さんになります。福島喜三次さんは佐賀県の出身で 1904 年東京商業学校（現一橋大学）を主席で卒業し三井物産の子会社東洋綿花（のちにトーメン今は豊田通商に合併）のアメリカ・ダラスの社長でしたが、福島氏の部下にドイツ人でウィリアムという人がいてダラ

スロータリークラブの会員になっていました。ある日彼が福島市を例会に連れていきまして、後日福島氏は入会を勧められ加入することになりました。ロータリーの初期の段階では一業種一名の資が極めて厳格な会則であったので、そのままで入会資格はありませんでしたが、1915年以降アディショナル・メンバー＝追加会員の制度により、同一職場における協同経営者として入会できました。1914年に第一次世界大戦が勃発しており、1917年にはアメリカも参戦となり、敵国人となったウィリアム氏が帰国したことから、福島さんはダラス RC の正会員となりました。その後1918年に大戦は終結しましたが、三井物産のニューヨーク支店、サンフランシスコ支店とともに終戦による取引に失敗し、ダラス支店もまた綿花買付で失敗し、莫大な損失を被り、福島氏は日本に呼び戻されることになりました。日本に帰ることとなりましたが、その時に「日本にロータリーを設立を考えている」ことをダラス RC の会長に申し出たところ、ダラスの会長は RI 会長に日本にロータリーの設立を勧める書簡を送ってくれました。その後、RI と福島氏との間で日本における RC 設立のきっかけとなりました。ダラスの会長より RC 連合会に特別代表の申請がなされ、1920年の1月に帰国していた福島氏のもとに1920年6月3日までに東京にクラブを設立する全権の委任状が送られてきました。福島氏は会社に莫大な損害を与え左遷という身の上で意気消沈な中で帰国したわけで、RC の設立どころではない状況であり、さらに設立まで三カ月程の期限を切られた福島氏は相当困惑したものだと思われまふ。そこでかつてダラスの自宅に招いたことがあり親交があった、後に日本の RC の父と称される三井銀行常務の米山梅吉氏に協力を依頼します。米山さんは1918年経済使節団の一員として訪米中にダラス RC 在籍の福島氏と出会い、例会にも出席はしていましたが、RC というものがどういうものか充分解からないまま引受けてしまい、会員参加を十分説得する事ができないまま、なかなかクラブを結成する事が出来ず、6月30日の期限が切れてしまいました。福島氏は RI に期限延長を申し出て条件付きで承認されました。その条件は上海 RC に在籍したことがあり、RC の手続きに精通している太平洋横断定期汽船のパイオニアであるパシフィック・メイルスチームシップ会社の横浜支店長である W・L ジョNSTON 氏を共同特別代表にすることでした。それからは RI との手続き関係はジョNSTON 氏、会員選考は米山氏が、雑務は福島氏という分担で結成

へと進んでいきました。そして、期限延長から4ヵ月ほどたった1920年10月20日、東京丸の内の銀行倶楽部にて東京 RC の創立総会が行われました。総会時のメンバー20名、後に4名が追加されてチャーターメンバーは24名で初代会長は米山梅吉氏、幹事に福島喜三次氏、スポンサークラブはダラス RC の橋渡しで、RI が直轄のクラブスポンサーでありました。毎月1回第二水曜日に例会を行う事とし、日本で初めての RC として1921年4月1日に承認されました。基本的には毎週例会を開くのが通常のクラブでしたが、東京 RC は当初毎月一回だけ集まるという特権保有クラブでした。全世界の RC が毎週1回例会を開くことを義務付けられたのが1922年6月5日以降、標準クラブ定款の採択によるものだったことからこの辺りは当時自由に決められたようです。東京 RC の会員選考は極めて厳格で、超一流である上に、英語の話せる人という条件があり、立派な大実業家ばかりの集まりでした。しかしながら定款細則などに対する関心が薄く、出席も悪かったのでクラブの存続も危ぶまれるほどだったようです。ところが1923年9月1日の関東大地震で大きな転機を迎えます。

国際 RC にも東京、横浜が壊滅したとの報が伝えられ、震災から3日後の9月4日には RI 及び全 RC を代表して深甚なる同情の意を表す。なんでも手伝うことがあれば幸いです。当時の国際ロータリー事務総長チェスレーベリー氏は直ちに25,000ドルの大金を義援金として東京クラブに送ってきたのです。これがきっかけとなってシカゴ RC から1,500ドル、サンフランシスコ RC、ニューヨーク RC から1,000ドル、その他各国の503に及ぶクラブから続々と義援金や救援物資が送られてきて、その額は89,000ドルに達しました。（この金額は1970年当時3億円ほど）これを見て腰を抜かすほど驚いたのが米山氏をはじめ東京 RC のロータリアンでありました。今までロータリーなど大した組織でないと高を括っていましたが、初めてロータリーの運動の何たるかを知り、これは大変な組織だということに気が付きます。東京 RC はこの義援金によって大掛かりな社会奉仕活動を実行することになりました。孤児院の敷地内に別棟「ロータリーの家」の新築、さらに東京、横浜の小学校188校への備品贈呈、焼失産科医療病院への寄付、殉職警察官遺族への援助などを繰り広げた。これらは被災者救援と震災復興の一助となりました。この世界中からの RC からの奉仕活動に具体的に接し、これまでの東京 RC の活動を猛烈に反省したのです。そし

て震災から2カ月半程たった1923年11月14日例会で月1回例会の特権を放棄し標準定款を採用し、毎週1回例会を開くことを決定し、その後会員の出席率も改善されました。このように大地震によってRCの本質が理解されることになり日本のRCが本当の意味でのRCとして活動を始めることになったそうです。1923年はロータリーの奉仕理念を表す唯一の文章として今日まで受け継がれている決議23-34が採択された年でもあります。関東大震災はこの決議23-34が国際ロータリーで採択された直後だったということで日本のRCだけでなく逆にRIや世界のクラブにも大きな影響を与えたと考えられています。因みに決議23-34とは1923年の国際大会で採択された社会奉仕に関する理念を述べたもので「ロータリーにおいて社会奉仕とはロータリアンすべてがその個人生活、事業生活、および社会生活に奉仕の理念を適用することを奨励、育成することである。この奉仕の理念の適用を実行することについては、多くのクラブが会員による奉仕にその機会を与えるものとして、さまざまな社会奉仕活動を進めてきている。」この文章は手続要覧を一度参照していただきたいと思います。

それでは続けて埼玉のロータリーの話になりますが、1951年11月東京RCがスポンサークラブとなって川越RCが創立され、1952年12月RIから認証されたことが埼玉のロータリーの幕開けとなり1953年11月に熊谷RC、遅れて1954年8月に浦和RC、続けて1955年12月に大宮RCの創立となりました。その後、川口、入間、越谷、浦和北と続々と新クラブが誕生し、増強拡大が図られました。1963年大宮RCのスポンサーで上尾RCが創立され、この上尾RCを親クラブとして鴻巣、桶川、そして1973年3月上尾西RC、1984年6月上尾東RCも創立されました。このように新クラブを増やす活動は「外部拡大」といって担当ガバナーの新クラブ創設の指示により

①地区の拡大委員会の開催 ②近隣既存クラブを通して働きかけ ③数か月の準備 ④創立総会を経てRIへの加盟申請⑤地区内クラブの参加のもとRI加盟の認証状伝達式なる披露の儀式を行う。以上の手順を経なければなりません。

具体的には阿部完市ガバナー（浦和東RC）より新クラブ設立の指示が下され、1988年1月三井田第257地区副幹事より上尾北RC設立に関し上尾西RCに連絡があり、同年2月2日に上尾市内3クラブの正副会長・幹事、パスト分区代理会を開催し3月5日の準備委員会では上尾西RCをスポンサークラブ、上尾、上尾東RCをホストク

ラブとしてまた、特別代表を上尾西RCの中村秀夫さんと3クラブの拡大準備委委員を指名し、この事業は上尾西RCの15周年事業とし募集地域は上尾市全域とし、創立時の新クラブ会長、幹事は上尾西RCより選出及び推薦することを決定した。なお、スポンサークラブとは新クラブ結成を推進し結成後も速やかに新クラブが成長できるよう指導する責任を引き受けたクラブを言います。また特別代表は地区ガバナーがスポンサークラブからロータリーに精通し、ロータリーの理想を説明することができ、自己のロータリーへの情熱を他人に伝える能力を有する人を任命します。6月20日には上尾北RC発起人会が開催され、代表には日吉健一会員のお父様日吉金治さんが選ばれ、発起人の中には江原一也会員も名を連ねております。6月29日から7月8、15、22日上尾駅西口の協和銀行3階で予備例会が開催されました。1988年7月29日に例会場にて金子雅英ガバナー、ご来賓に新井松司上尾市長、星野博三上尾商工会議所会頭にお出でいただき盛大に創立総会が開催されました。そして、当日懇親会も東部サロン天覧の間で行われ創立時会員数は46名でありました。この年の9月2日に国際ロータリー理事会の承認を経て晴れて当クラブが正式加盟となりました。因みにこのRI加盟申請書の名簿に記載された会員をチャーターメンバーと呼んでいます。そして1989年4月16日むさしのグランドホテルにて内外のロータリアン1000名にも及ぶ参加登録とたくさんの来賓の参加の元で金子雅英ガバナーより認証状の伝達式及び式典が挙行されました。日本では加盟認証状伝達式と祝賀会を含めてチャーターナイトと呼ばれています。当時の状況は創立5周年記念誌がありますので是非お目同士頂ければと思います。これからチャーターメンバーも江原会員と私の2名しか在籍していませんので、今後の創立記念日に関する例会の在り方も変わらずお得ないと思います。私もロータリーに関する記事を読むようになったのは理事会メンバーに選ばれたのがきっかけでした。新メンバーの皆様もロータリーに関する資料はいろいろありますし、ロータリーの友などに目を通す習慣は大切だと思います。上尾北RCの創立記念日に因んでロータリーについてちょっと突っ込んだ時間にしてみては如何でしょうか。まずはご提案させていただいて終わりといたします。